

IV. 新しい中央図書館のエリア（場所）イメージ

新しい中央図書館を特徴づける施設イメージを、機能、設置に適する場所、広さ、設備等の観点に沿ってまとめる。また、エリア（場所）のつながりをまとめた関係図を作成した。さらに、それらの場所では実現したい活動イメージを例示した。

1. いたばしギャラリー

1) 基本条件

表 IV-1 いたばしギャラリーの概要

①	機能	<ul style="list-style-type: none"> “板橋らしさ”を共通テーマとする、行政・図書館からはもとより、区民からの活動も含めた“板橋らしさ”を知ったり、学んだりする場の運営と提供。
②	設置適所	<ul style="list-style-type: none"> 周囲からいたばしギャラリーの活動が感じられるエリア（場所）が望ましい。 図書館のセキュリティ範囲を調整できることが望ましい。 「緑と文化」の出会う場所として、公園の緑を感じられる場所が望ましい。 図書館で一番大きな集会スペースとして、多くの図書館機能とつながりが持てる位置が望ましい。
③	広さ	<ul style="list-style-type: none"> 150 m²程度。120 席程度の座席配置が可能な計画。
④	設備等	<ul style="list-style-type: none"> 展示ができるしつらえ。（展示壁、可動展示パネル、ピクチャーレール等） ワークショップ、会議研修が可能な場。（平土間、可動テーブル、可動椅子およびそれらの収納スペース） 映像が使える、機械等が動かせる、実演できるしつらえ。（各ブースに給電できるコンセント、調光設備、映写できる白壁等・遮光カーテン・防音への配慮） 水場。（流し台（給排水設備）） 学習室との近接を検討する。

2) 関係図

いたばしギャラリーは様々な用途に利用される施設をイメージしているため、図書館内になるべく多くの機能と関連づけるとともに、セキュリティにも注意する必要がある。

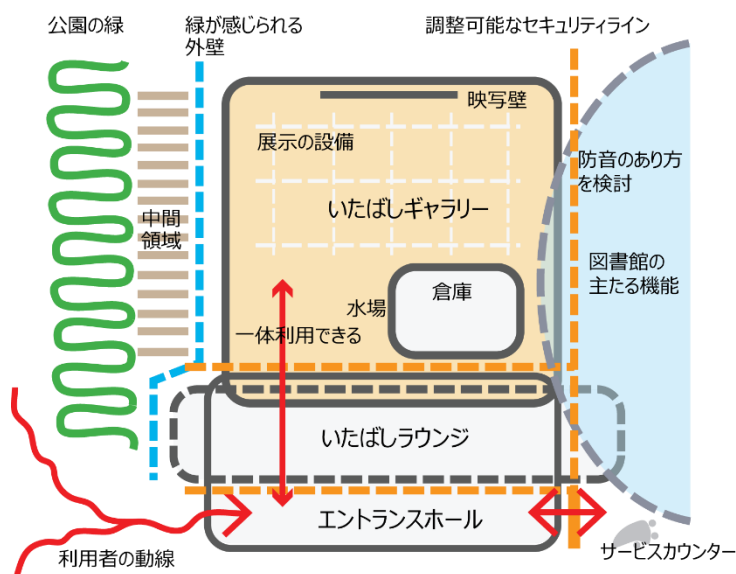


図 IV-1 いたばしギャラリーの関係図（例）

3) ソフトへの展開例

表 IV-2 いたばしギャラリーの活用イメージ

活用イメージ		説 明
①	地域活動の場の提供	講演や発表、展示の場として貸出する。
②	特集展示、イベントの実施	多目的に使いやすくすること、利用者が入りやすい配置を工夫することにより、自由なテーマによる展示やイベントを掘り起こす。
③	平和資料の展示	平和都市「板橋」として、平和関連資料や平和公園ゆかりの資料を展示する。
④	平和公園のイベントとの連動	平和公園で実施されているイベントと連動して、図書の企画展を実施し、イベントを周知する。
⑤	「絵本のまちいたばし」ボローニャ子ども絵本館特設フェアの開催など	「絵本のまち板橋」を区内外にPRする場としていたばしボローニャ子ども絵本館の展示（特設フェア）を開催する。
⑥	「絵本の読み聞かせ」「児童書読書会」の開催	大人数を対象とする読み聞かせや読書会の場とする。
⑦	講演会の実施	緑と文化に関する講演会を開催する。公園の緑の中でのイベント等も企画する。
⑧	学校等の活動の発表・展示の場	区内の中学校や高校の文化部、大学等の活動や発表の場とする。
⑨	「ものづくりの板橋」	いたばし産業ビジネス支援、中高生向けミニ講演会を開催する。
⑩	「いたばし産業見本市」との連携	「板橋製品技術大賞」の展示や、その技術や原理に関する本の紹介を併設する。
⑪	「ビジネス支援」	板橋の製造業を牽引する区民に役立つ本や情報を探せる場所、探し方を紹介するコーナーを併設する。
⑫	「理科・社会」関係のミニ講演会の開催	区内の製造業に携わる方々が講師となって製品の内容や自分の仕事を支える技術に関するミニ講演を実施する。
⑬	デジタルサイネージによる情報提供	文化や歴史、買い物、子育て、学びなどに関する情報や、区のプロモーション動画、動画広告などを発信し、区民の地域への愛着を醸成する。

4) 空間イメージ

展示、講座、講演会の会場として使用することができる空間。帰宅困難者の一時収容施設としても機能しうることを望ましい。



図 IV-2 いたばしギャラリーの空間イメージ（例）

2. いたばしラウンジ

1) 基本条件

表 IV-3 いたばしラウンジの概要

①	機能	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館利用者、公園利用者が利用する交流・飲食の場。
②	設置適所	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館利用者も公園利用者も使えるエリア（場所）が望ましい。 ●公園利用者が図書館内に入ることなく、気軽に利用できる位置が望ましい。 ●いたばしギャラリーに近接し、イベント時等にも使えることが望ましい。 ●図書館内からも飲み物等の購入ができることが望ましい。
③	広さ	<ul style="list-style-type: none"> ●90 m²程度。いたばしギャラリーとエントランスホールとの関係を調整することで、200人程度の催事ができるエリア（場所）を検討。
④	設備等	<ul style="list-style-type: none"> ●簡単な飲食物が提供できる厨房設備。（調理方法等は今後検討を要する。） ●材料、ゴミ等の廃棄動線に配慮する。 ●公園の良い環境を活かし、公園利用者の憩いの場ともなるように屋外テラスを設置するなど、十分に配慮する。 ●エントランスホールに近接し、図書館の賑わいを表出するような関係とする。 ●運営については、今後検討を要する。

2) 関係図

いたばしラウンジは図書館利用者のためだけではなく、公園を利用する区民にも利用することが望ましい。

また、前述のいたばしギャラリーの使い方の幅を広げられる関連性をもたせることが望ましい。セキュリティに注意する必要がある。

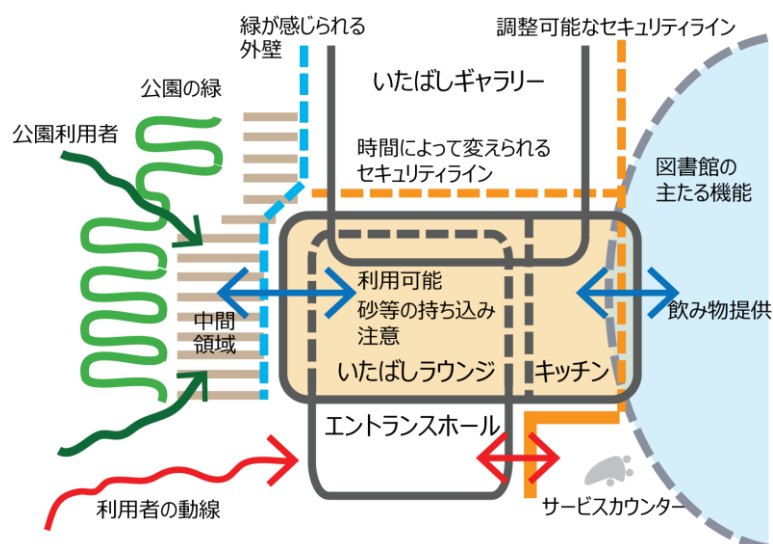


図 IV-3 いたばしラウンジの関係図（例）

3) ソフトへの展開例

表 IV-4 いたばしラウンジの活用イメージ

活用イメージ		説 明
①	カフェでのおはなし会の開催	いたばしラウンジ（カフェ）を利用したおはなし会や、親子を対象としたイベントを検討する。
②	世代交流が進むカフェの展開	現在、平和公園を利用している様々な世代と図書館利用者の交流を図るため、公園利用者が気軽に寄れるように図書館の入り口やいたばしラウンジ（カフェ）を設置する。
③	公園利用者も楽しむカフェの展開	いたばしラウンジ（カフェ）については、公園の利用者が気軽に立ち寄れる公園と一体化した空間として配置する。
④	絵本や図書に関連したメニュー	絵本や図書にちなんだカフェメニューなどを企画し絵本や図書により親しめる環境を整える。

4) 空間イメージ

公園の緑が身近に感じられる空間とする。公園側からはラウンジの様子が窺え、公園側からもアクセスしやすい場所が望ましい。



図 IV-4 いたばしラウンジのイメージ（例）



図 IV-5 公園から見えがくれする、いたばしラウンジ（例）

3. ボローニャ子ども絵本館

1) 基本条件

表 IV-5 ボローニャ子ども絵本館の概要

①	機能	<ul style="list-style-type: none"> 世界各国の絵本の蔵書を基盤に、「絵本のまち板橋」を象徴する実際に、見て、触れて、比べることができるエリア（場所）の創造。 緑を感じられる空間の中で、自分の住んでいる場所から日本、世界の文化、児童書文化を通じて、大人も子どもも学ぶことができるエリア（場所）づくり。
②	設置適所	<ul style="list-style-type: none"> 親子、児童が親しみをもって通えるように、公園と近い関係を保つ。 色彩鮮やかな絵本等、公園を利用する人に対してアピールできるよう、展示空間と書架、閲覧スペースを配置する。 ボローニャ国際児童図書展に出品された貴重な価値の高い絵本については、公開の際にも展示、保管に十分配慮する。 外国語の絵本は、大人の学習教材としての利用もあることを踏まえ、ニーズにも対応できる空間構成とする。
③	広さ	<ul style="list-style-type: none"> 330 m²程度。児童エリアとの近接を図り、おはなしの部屋（30 m²）との共用も検討。
④	設備等	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達と読書形態を踏まえた閲覧スペースを用意する。 親子での利用に積極的に配慮する（赤ちゃんの駅の設定等）。 開架閲覧エリアに影響を及ぼさないよう防音に配慮する。 公園の緑を生かすスペースとするが、屋外空間での閲覧等はセキュリティ、本、建物の観点において具体的な配慮を要する。 ボローニャ子ども絵本館、児童図書とも公開書庫を管理カウンター近くに設ける。 絵本・児童書に関するレファレンススペースを設ける。 ボローニャ子ども絵本館と児童図書スペースで共通のテーマを展示、配架できるスペースを設ける。

2) 関係図

ボローニャ子ども絵本館やいたばしギャラリーの活動により、公園に対して、図書館の視覚的な魅力を創り出すことができる。

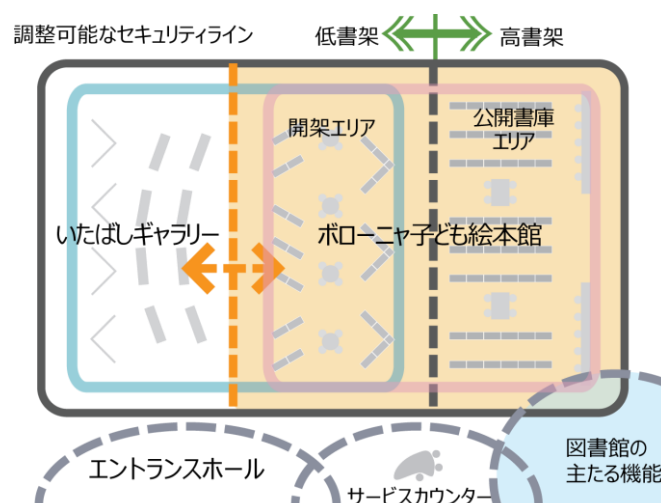


図 IV-6 ボローニャ子ども絵本館の関係図（例）

3) ソフトへの展開例

表 IV-6 ボローニャ子ども絵本館の活用イメージ

活用イメージ		説 明
①	美術館的な展示空間の創出	絵本は、表紙自体が一枚の美術品的なものも多いので、表紙が見えるように配架する。
②	絵本コンシェルジュの配置	児童エリアと兼用で設置するレファレンスカウンターに「絵本コンシェルジュ」を配置し、個々の子どもの年齢、興味、成長過程に応じた絵本の紹介や説明や相談に応じ、子どもと絵本をつなぐ。
③	研究への対応	ボローニャ子ども絵本館の閉架書庫については、学生や研究者のために公開書庫として設置する。
④	海外絵本の一部貸出の開始	これまで実施していなかったボローニャ絵本館所蔵絵本の一部について個人貸出を行う。ただし、美術的、学術的価値の高い貴重な資料を除く。
⑤	絵本づくりワークショップの実施	「児童向け絵本づくりワークショップ」を実施し、子どもたち自身が絵本の作成に携わることにより、子どもたちの絵本への興味を高め、表現力を向上させる。
⑥	グローバルお話し会の開催	豊富な海外絵本と絵本コンシェルジュを活用し、外国語によるお話し会を開催することで、区民の多様な利用と、子どもたちの異文化への理解を促す。
⑦	新着図書の紹介(ボローニャブックフェア)	北イタリアのボローニャ市で毎年行われる「ボローニャ国際児童図書展」の事務局から届く新着絵本などを紹介するボローニャブックフェアを開催する。
⑧	テーマ展示の実施	テーマを設定して親しみやすい展示を行う。
⑨	ボローニャの関連事業の実施	イタリアやボローニャの文化・芸術・産業の紹介など関連企画を実施する。

4) 空間イメージ

絵本の装丁は見て楽しく美しいものであるため、「面出し」による配架を主体としたエリアとする。また、児童に選びやすい書架の高さにする。また、ボローニャ子ども絵本館の蔵書には貴重な海外の絵本も含まれているため、直射日光を避け、熱と光からの表紙の保護にも配慮が必要である。

図 IV-7 ボローニャ子ども絵本館と児童エリアのイメージ（例）



4. 板橋区コーナー

1) 基本条件

表 IV-7 板橋区コーナーの概要

①	機能	<ul style="list-style-type: none"> ●板橋区の魅力を紹介するエリア（場所）。（板橋区と交流のある都市の紹介コーナー、板橋区にゆかりのある人物の紹介コーナーなど。） ●民俗学者である櫻井徳太郎氏の業績と櫻井徳太郎文庫を紹介するコーナー。
②	設置適所	<ul style="list-style-type: none"> ●地域資料と連続して配置する。 ●平和コーナーと近接した場所が望ましい。
③	広さ	●50～100 m ² 程度。
④	設備等	<ul style="list-style-type: none"> ●表紙が見える配架ができる書架を設置する。 ●調査や学習ができるスペースを確保する。 ●データベースの検索ができる PC を設置する。

2) ソフトへの展開例

表 IV-8 板橋区コーナーの活用イメージ

活用イメージ		説 明
①	櫻井徳太郎文庫 ワークショップ	櫻井徳太郎文庫を活用し、民俗学や「板橋」について学ぶワークショップなどを実施する。
②	友好・姉妹都市の 紹介	区と国内外の交流都市の文化や産業を紹介する図書資料等を展示、紹介する。
③	いたばしギャラ リーとの連携	いたばしギャラリーと連携し板橋区の魅力を発信する。

◎ エリアの規模と 利用イメージ

講座、講演会、イベントなど実施するイベントの目的、内容、規模により使用するエリア（諸室）を例示する。
一時的には大きな規模のイベントにも対応できるように、基本設計時に各室の連携と使用イメージを具体化する必要がある。

中央図書館		特徴	用途
	学習室	分割可能（2分割） 小さな部屋として利用 各40席 合計80席	・小会議・分科会利用
	エントランスホール いたばしラウンジ	飲食可能・公園と近接 席数 80席程度	・一体利用により、200席規模のイベントが可能 ・展示設備が充実しているので、企画展示ができる。
	いたばしギャラリー ※ 暗転・簡易防音 ※ 別場所との物理的距離を確保する。	暗転可能 展示設備、AV設備充実 席数 120席程度	・飲食の提供と、レセプション利用
おはなし	※ 図書館主機能とは必要に応じて仕切れる仕組み。	子どもに適した内装 暗転可能 20席	・サポートスペースで利用 ・託児スペースとして利用

図 IV-8 エリアの規模と図書館機能の連携検討例